

千葉商科大学 プレスリリース

日本初の自然エネルギー100%大学へ

- ・重要社会課題に対する環境目標を設定
- ・地産地消のエネルギービジネス「CUCエネルギー株式会社」を設立
- ・世界的イニシアチブ「自然エネルギー100%プラットフォーム」に国内の大学として初登録

千葉商科大学（学長：原科幸彦）は、このたび、地球温暖化対策等の重要社会課題に対する環境目標を設定し、本学所有のメガソーラー野田発電所等で発電するエネルギー量と、本学市川キャンパスにおいて消費しているエネルギー量を同量にする「自然エネルギー100%大学」をめざすことをここに表明します。

【2018 年度目標】千葉商科大学をネットで日本初の「RE100 大学」にする。

- ・本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と千葉商科大学市川キャンパスの消費電力を同量にする。

【2020 年度目標】千葉商科大学をネットで日本初の「自然エネルギー100%大学」にする。

- ・本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と千葉商科大学市川キャンパスの消費エネルギーを同量にする。

本学は地球温暖化対策等の環境保全に貢献するため、日本の大学単体では日本一大きいメガソーラー発電所を、千葉県野田市の本学所有地に建設し、発電した電気を東京電力に売電する「太陽光発電事業」を2014年4月から開始しました。本発電所は、敷地約4万6,781㎡に約1万枚のソーラーパネルを設置。2016年度には、一般家庭約800世帯*が1年間に使う電気量に相当する年間約317万kWhを発電し、再生可能エネルギーの促進に努めています。（※1世帯あたりの年間電力消費量約4,000kWh想定）

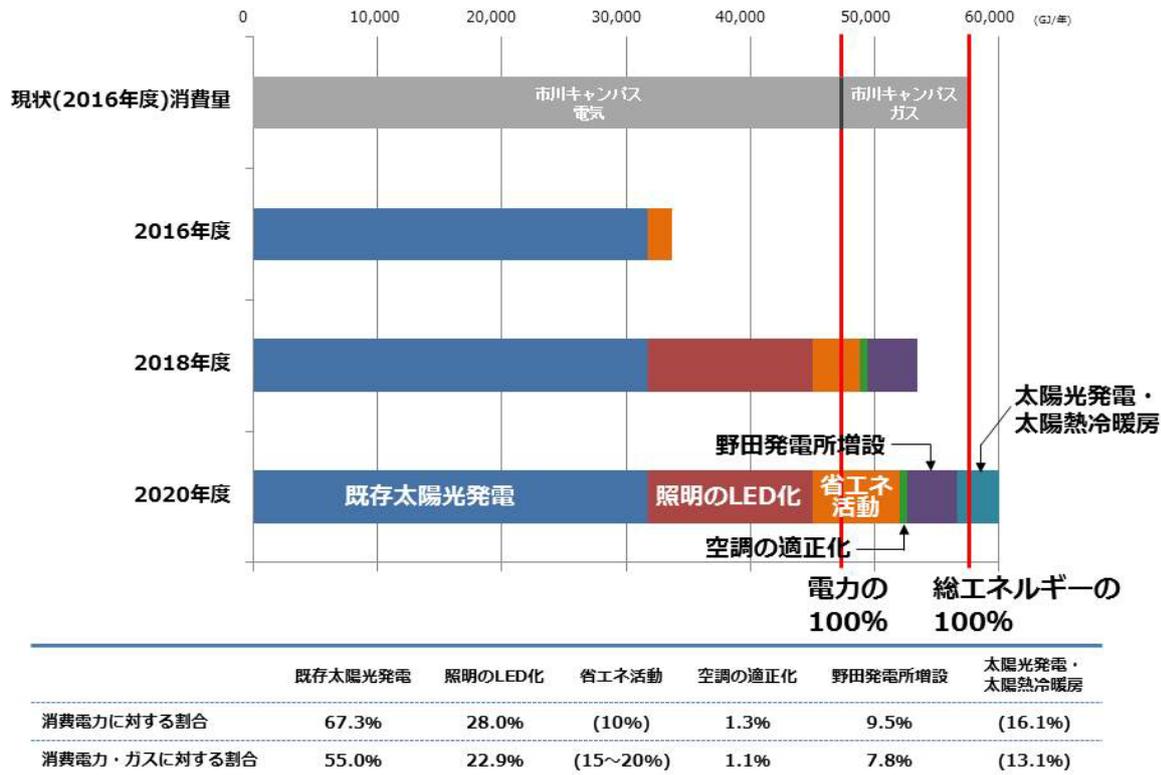
このたびの環境目標の実現にあたっては、これまで本学が取り組んできた地球温暖化対策活動を軸として、ハードウェア、ソフトウェア、ハートウェアという3つの柱で、全学的なスキームを展開して取り組みます（次頁参照）。

本学の宣言及び取り組みは、自然エネルギー100%の実現を提唱する世界的なイニシアチブ「自然エネルギー100%プラットフォーム」（運営：CAN-Japan（気候変動問題に取り組む、120カ国以上・1,100の環境NGOからなる国際ネットワーク組織であるClimate Action Network (CAN)の日本拠点））の審査を経て、同プラットフォームにおいて、国内の大学として初めて登録されました。（2017年11月13日付）

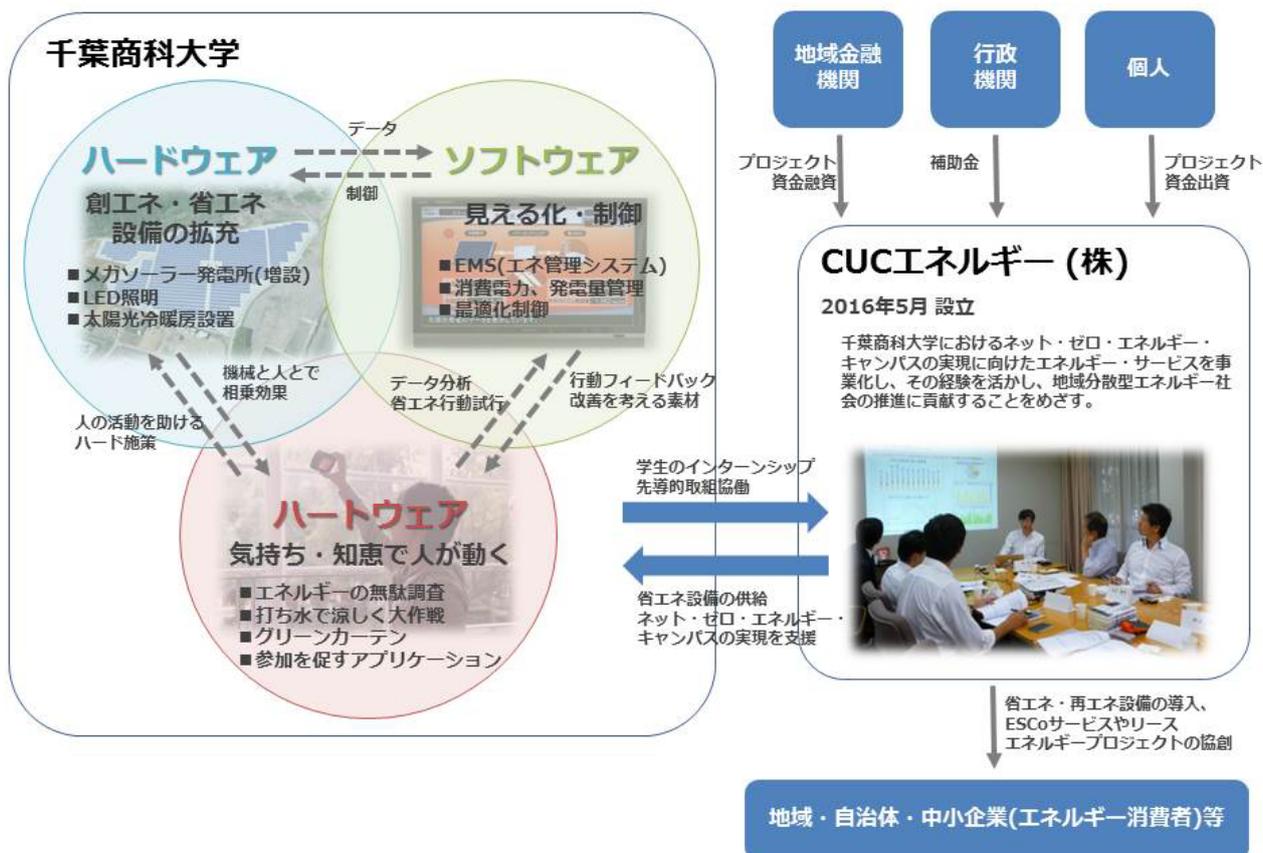
さらに、本学はこのたびの取り組みを起点に、地域に持続可能な恩恵をもたらす地産地消のエネルギービジネスとして、CUCエネルギー株式会社を設立。本学に対して省エネ機器のリース事業等を開始しています。今後も同社は本学と連携しながら、地域の小売電気事業者として本学で発電する電気をはじめ、地域の自然エネルギーを売買する構想のほか、省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、顧客の利益や地域経済の活性化、地域政策への提言、地球環境の保全に貢献する事業を展開する予定です。

近年、気候変動問題に取り組むことは経済的に有益であり、社会に多様なメリットをもたらすことが実証されています。世界各国の企業や金融機関等が100%自然エネルギーに向けて動きはじめています。本学は、これからの社会を担う若者を育成する社会的責務としても、この宣言と取り組みが、日本そして世界的課題を解決する一つのモデルに寄与するものとして、本学の知を結集し全総力をあげて取り組みます。

【日本初の自然エネルギー100%大学 達成イメージ図】



【千葉商科大学が取り組む地域分散型エネルギー社会の構想】



<本件に関するお問い合わせ先> 千葉商科大学 戦略広報センター

〒272-8512 市川市国府台 1-3-1 TEL: 047-373-9968 FAX: 047-373-9969 E-mail: p-info@cuc.ac.jp



www.cuc.ac.jp